

## 第9分科会 「学校安全」 運営概要

【研究課題】 命を守る防災教育・安全教育の推進と校長の在り方

【研究の視点】 1 自ら判断・行動できる子どもを育てる防災教育・安全教育の推進

2 家庭・地域等との連携を図った組織的かつ計画的な防災教育・安全教育の推進

### 分科会研究協議の運営計画

多くの人命を奪った阪神淡路大震災、東日本大震災など、日本各地において地震、水害、土砂災害等、自然災害がもたらす被害が一段と危惧されている。また、交通事故や不審者犯罪、児童虐待など子どもが被害者となる事故・事件の発生も増加している。さらに、スマートフォン等の急速な普及により、SNSに関わる犯罪は多様化複雑化している。このように子どもたちを取り巻く危機的状況は深刻度を増している。こうした現状において、学校には、安心・安全な教育環境を確保するとともに、安全に関わる知識、危険予測・回避能力等を子どもたちに育むことが求められている。加えて、予測できない事態が起こった時、当面する課題に向き合い、自ら判断し行動できる力を身に付けることも求められている。そのため、校長は、組織的かつ計画的に組み立てた教育活動を基盤に、家庭・地域・関係機関と連携・協働を図りながら、子どもの命を守るための諸課題に適切に対応しなければならない。

本分科会では、子どもたちの安心・安全を確保し、家庭・地域・関係機関と連携し対応する体制づくりや命を守る防災教育・安全教育を推進するための具体的方策と成果を明らかにする。

視 点 1 自ら判断・行動できる子どもを育てる防災教育・安全教育の推進

子どもに「自分の命は自分で守る」力を身に付けるための防災教育、安全教育の推進  
学校安全計画、年間指導計画等の整備と見直し、並びにマンネリ化を防ぐ訓練等の改善  
計画、実践、評価を連動させるための校長の役割と指導性の究明

視 点 2 家庭・地域等との連携を図った組織的かつ計画的な防災教育・安全教育の推進

家庭や地域、関係機関との綿密な連携体制の整備  
自助と共助の考え方に立ち、学校・家庭・地域が連携し、地域全体の防災力の高めるための取組の推進  
家庭・地域等との連携を図った組織的かつ計画的な取組を推進するための校長の役割と指導性の究明

**昨年度までの成果・課題** ~平成29年度 全連小佐賀大会、道小宗谷・稚内大会より~

【視点1についての成果】

子どもたちが自ら判断し行動できる力を高めるために、体験的・訓練的防災学習の充実や教職員研修の充実など、校長が中心となって、より実践的な取組を進めることで防災学習の向上が図られた。子どもたちは災害に関する知識や対処法を学び、「自分の命は自分で守る」という意識を高めた。また子どもや教職員の意識が変わり、避難訓練などの質的な変化が見られた。

【視点2についての成果】

家庭、地域、学校運営協議会とも連携しながら、災害時には一つの組織として機能できるようにすることが校長としての大きな役割であることを確認した。  
幼小中の合同の避難訓練は、教職員や児童生徒の「共助」の考え方を高めた。また、視野を広げて情報を収集する意識やその情報を基に危険を予測し、危機を回避する力の高まりが見られた。

【視点1についての課題】

時間の捻出が難しい。災害を経験しているか否かで切実感に大きな違いもある。そのため、校長は日頃から校区の状況を把握し、実態に合った防災教育・安全教育を推進していくことが求められる。子どもが臨機応変に対応できる力が身につけているのか、学校や地域の取組によって、子どもの危険予測、危機回避能力が育成されているのかを検証しながら、評価・改善を進める。

【視点2についての課題】

災害がいつどこで発生するか分からないという現状を認識し、校長はPTAや学校運営協議会等の会議で計画的に議題として取り上げ、具体的な対応策や連携の仕方を考えていくことが求められる。防災教育の取組を交流する機会を設定し、よい取組を広げたり、質を高めたりする必要がある。また、各市町村校長会での交流や情報交流も設定し、検証・改善を加えながら充実させていく。

## 研究発表の概要

### 【視点1】自ら判断・行動できる子どもを育てる防災教育・安全教育の推進

研究発表者：栃木県那珂川町立小川小学校 校長 川上 ひより

「命を守る防災教育・安全教育の推進と校長の役割

～自分で考え、自分で身を守ることができる児童の育成を目指して～」

#### 発表の趣旨

栃木県南那須地区で想定される災害や事件、事故などを基に、防災教育・安全教育の見直しや児童の危機回避能力育成のために必要な取組と校長の関わりの具体を発表する。

#### 発表の概要

栃木県南那須地区で想定される「土砂災害」「水難事故」から身を守る力を育む授業の具体、教職員の資質向上を目指した校内研修の取組、地域や関係機関と連携して行う防災防犯の取組を数校の実践から発表する。

### 【視点2】家庭・地域等との連携を図った組織的かつ計画的な防災教育・安全教育の推進

研究発表者：北海道釧路市立共栄小学校 校長 濟藤 和彦

「地域の特性を生かした防災・減災教育のあり方

～「自助」「共助」「公助」の連携による防災力の向上を目指して～」

#### 発表の趣旨

釧路市は地震が多く、津波被害が考えられることから、学校で防災・減災教育が意図的・計画的に行われている。地域にも津波は重要課題であり、家庭や地域、関係機関と連携した防災計画、「自助」「公助」「共助」の考え方や役割を理解し、行動できるよう取り組む防災教育・減災教育の意義は大きい。その取組と校長の関わりの具体について発表する。

#### 発表の概要

釧路市で想定される地震、津波被害、活火山の爆発等から身を守るため、家庭、地域、関係機関と連携した6校での防災訓練、避難場所運営等の取組を発表する。

## 協議の流れ

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| 1 開会・日程確認（10分）    | 6 休憩（10分）           |
| 2 趣旨説明（10分）       | 7 グループ協議 視点1・2（60分） |
| 3 研究発表 視点1・2（40分） | 8 全体協議（40分）         |
| 4 グループ協議（15分）     | 9 まとめと今後の課題（10分）    |
| 5 全体協議（15分）       | 10 連絡・閉会（03分）       |

## 討議の柱

【視点1】「自ら判断・行動できる子どもを育てる防災教育・安全教育推進のための校長の役割と指導性」

キーワード：「日頃の備え」「日常点検」「教科への広がり」「事後の表現活動」「危機管理（事前・発生時・事後）」「危機管理マニュアルの見直し」「地元の危機理解」「避難訓練の改善」「PDCAサイクルによる改善」「校長の講話」

【視点2】「家庭・地域等との連携を図った組織的かつ計画的な防災教育・安全教育推進のための校長の役割と指導性」

キーワード：「近隣小中高との連携」「警察、消防、行政との連携」「校長のビジョン」「自助・共助・公助」「連携の希薄化防止」「教育課程への位置付け」「カスタマイズ」「防災・減災教育担当者」

## お願い

グループ内で名刺交換を行いますので、6枚お持ちください。

グループ内での情報交換のため、自校の「防災教育」や「安全教育」に関する資料がありましたら、グループの人数分6部印刷の上、ご持参ください。

グループ編成及びグループ討議の司会・記録につきましては、後日、北海道小学校長会ホームページに分科会参加者名簿（座席表）を掲載しますのでご確認ください。